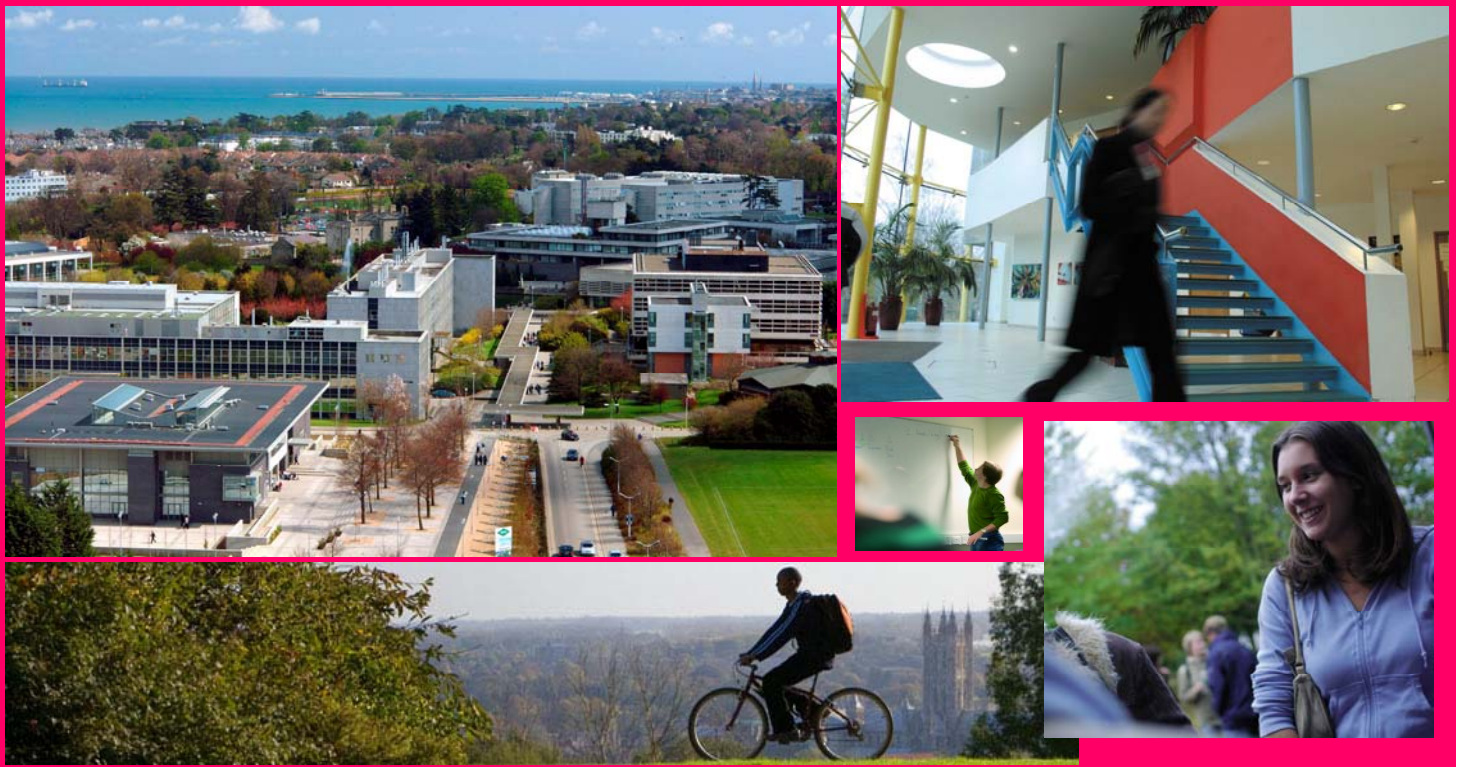




SAF Newsletter Vol. 11

SAF 日本事務局 〒163-1304 東京都新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー4F TEL:03-5321-6222 <http://www.studyabroadfoundation.org/japan>



2009 年春・SAF 留学生特集：今、それぞれの留学が始まる！

SAF 日本事務局では 2009 年に、アメリカ・イギリス・ニュージーランド・アイルランドの約 20 の異なる SAF ホスト大学へ学生が出発します。今回のニュースレターでは、これから留学する希望にあふれた SAF 学生の声を特集してみました◎ それぞれの目標とプランを持った学生たちの留学を応援します！！



私が留学しようと思った一番の理由は、自分の英語力をもっともっと伸ばしたいと思ったからです。以前から英語には興味があり、高校時代にも 1 年間オーストラリアに留学していました。その時はロータリーの交換留学生として派遣されていてホームステイをしていたのですが、ホストファミリーと上手くやっていくのが大変だったり学校での勉強内容をあまり楽しめなかったりと、楽しいことと同じくらい、もしくはそれ以上につらいことがありました。また交換留学生としても比較的年齢が低かったため、一人で電車に乗ることを禁止されたり携帯電話を持たせてもらえなかったりと色々な制限があり、自ら色々なことに挑戦する機会があまり持てなかったという後悔が心の中に残っていました。そしてその経験から 6 年経った今なら、もっと充実した日々を送れるのではないかと思ったことです。また、寮生活に興味があったことも一つの要因です。

留学先のセント・トーマス大学は、カウンセラーの菊池さんが勧めて下さり、興味を持ちました。コミュニケーションやジャーナリズムを勉強できる環境なのも志望した大きな要因です。

留学先ではまず、友達をたくさん作りたいです。留学生に限らず、現地の学生とも仲良くなれたらと思っています。体験したいこととしては寮での生活がどのようなものなのかということや、滞在先の野球チーム、ミネソタ・ツインズの試合観戦、また学校で開かれる様々なイベントなどを考えています。学部ではコミュニケーションやジャーナリズムを勉強したいです！

留学一週間後の関さんは———→

まだこちらに来て一週間ですが、今のところ毎日楽しく過ごしています。早速、学校での授業以外にも教会での演劇を見に行ったり、ミネアポリス美術館に行ったりしました。すぐに携帯電話も購入しました！高校のときの留学とは違う経験がたくさんできそうでとてもわくわくしています。明日はミネソタ・ツインズ vs シアトル・マリナーズの試合を見に行けることになりました。有言実行！楽しんでます。

慶應義塾大学 文学部英文学専攻 2 年 関 春香さん University of St. Thomas 英語力強化+授業履修プログラム 2009 年 3 月～2010 年 2 月

夢は、世界の通信技術の標準化。 この仕事を達成するためには英語が話せることが前提だから。



慶應義塾大学 理工学部 3年 原 侑太郎 くん
アメリカ University of Utah / 2009年3月～2009年12月
英語力強化+授業履修プログラム(Computer Science)

留学先を決めるにあたって、大学の研究室の教授の勧めもあり、ユタ大学以外には視野に入れていませんでした。コンピューターの世界ではユタ大学は名も知られているため、行くならばここだと決めていました。

留学中にチャレンジしたいことは現地の学生と出来る限り多くの経験を共にすることです。そのためには現地の大学のサークルに入ったり、共通の趣味をもつ友達を多く作って行くことが必要になるでしょう。そうやって出来た友達を一生の友達にできれば幸いです。

私は現在通信の研究室に入っています。通信技術は各国によって様々なため、私はその通信技術の標準化をしたいと思っています。この仕事を達成するためには英語が話せることは前提条件になります。つまり、英語を話せるようになるのが目標なのでなく、英語を使って上述の夢を達成することが目標です。帰国後は英語を使って自分の専攻分野の研究を頑張っていきたいです。

【左】ユタ大学への上陸前オリエンテーションにて、ユタ大学へ留学の仲間と。オリエンテーションで他の SAF 学生と初顔あわせ。SAF のプログラムは個人留学ですが、オリエンテーションはホスト大学ごとに行います。ここでも新たな仲間との出会いがあります！

三ヶ月留学で初めて海外(ロサンゼルス)にいったことが今回の留学のきっかけでした。今までの20年間で養われた価値観を180度変えられてしまうような経験をし、もっと色々なことを知りたと思うようになりました。



重村 辰旭くん (中央大学総合政策学部 4年)
Montana State University
2009年4月～12月
英語力強化+授業履修プログラム



島崎 達也くん(駒澤大学文学部歴史学科 4年)
University of Canterbury
2009年2月～11月
授業履修プログラム

留学を通してアメリカという第3の視点を手に入れる。ニュージーランドでマオリ学や民俗学を勉強したい。

僕は在日韓国人として、日本と韓国の両面から物事を捉えてきましたが、留学を通してアメリカという第3の視点を手に入れたいと思っています。そして、日本から飛び出し、より価値観の異なる人々と生活してみたかった。具体的に留学を通してやりたいことは：①人種に限らず、どんな人の前でも自分を堂々と主張できるようになりたい。②日本の文化を多くのアメリカ人に紹介したい。③専攻科目(金融・会計)の勉強に打ち込みたい。④スポーツをやりたい。留学に向けて、願書や資金調達などを半年以上前から行っていました。いよいよだなんて気持ちです。

将来の夢は東アジアをビジネスでつなぐこと。そのために、より複眼的な視野を手に入れ、またどんな人の前でも自分をぶれることなく主張していけるようになりたい。英語もビジネスレベルにまで引き上げることが必要です。

【中】佐藤 翔平くん (慶應義塾大学 総合政策学部 2年)
Montana State University 英語力強化プログラム

【右】福本 智之くん (大阪大学 外国語学科 3年)
University of Limerick 英語力強化+授業履修プログラム



留学先にニュージーランドを選んだ理由は、マオリ学や太平洋諸島研究など、オセアニアの民俗学や人類学を中心に勉強したいと考えているからです。留学先で学ぶ分野とは多少違いますが、留学後は日本で大学院進学を考えています。留学の期間は限られていますが、英語だけに固執しないで、いろいろな言語や文化を学び、いろんな国の人間と知り合いたいです。

ニュージーランドの大学の授業履修プログラム参加必要 TOEFL は80でしたが、英語は、英語圏の映画やゲームを取り寄せて、普段から楽しみながら覚えました。ひと一倍勉強したという認識はありませんが、身の回りの環境をフルに活用して、大学の授業には積極的に参加しました。

太平洋地域の民俗学に興味があるので、英語を万能な言語だと思わず、今後もスペイン語や、他にもマイナーな言語なども学んで、お互いの文化を尊重する相互理解の意識を育てていきたいです。

【右】廣本 孝仁くん (慶應義塾大学法学部法律学科 2年)
University of Canterbury 授業履修プログラム

